



# おもすの森

発行

大本山 本門寺根源

山務庁

富士宮市北山4965

電話 0544-58-1004

## 日蓮大聖人

### 御聖訓

一生はゆめの上、明日を（期）せず。いかなる乞食にはなるとも、法華經にきずをつけ給べからず。

#### 『四條金吾殿御返事』

この御遺文は、建治三年（一二七七）七月、身延山の日蓮大聖人から鎌倉の信徒である四條金吾頼基（しじょうきんごよりもと）に与えられた御手紙です。

この年、大聖人の門弟である三位房（さんみぼう）が鎌倉の桑ヶ谷（くわがやつ）に於て比叡山の僧侶である龍象房（りゅうどうぼう）と問答した「桑ヶ谷問答」という事件がありました。四條金吾はその現場に居合わせたの

## 法華經にきずをつけ給べからず

ですが「兵杖を帯して乱入した」と無実の罪を着せられ、主君である江間氏から法華經信仰を捨てなければ領地を没収するとせまられたのです。

このような状況下で大聖人がしたためられたのが冒頭に掲げた一節です。「一生は夢の如しで、人はみな明日の命もわからない。あるいは乞食をすることもあるかも知れない。けれども断じて法華經に傷を付けてはならない」という文意です。

私たちも生きて行く上で様々な境遇に晒されることがありますが、法華經に傷を付けるような生き方だけは慎みましよう。世間に評価されなくても良いですから教主釈尊に褒められる生き方を致しまししよう。

## 第12回 清掃奉仕のお願い

**10月24日(金) 午前9時～10時30分(雨天翌日)**

今回の清掃奉仕は、11月の当山御会式を迎える為の道場荘厳であります。

清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。

そして、清らかな気持ちで御会式に是非ご参拝下さい。

＝持ち物＝

清掃用具・草刈り機・ブロー等、お持ちの方はご持参ください。

燃料は本山で用意致します。



## 御大事御本尊会

七月十九日(土)、御大事御本尊会が奉修されました。毎年夏季の土用丑の日に特別に奉奠される御大事御本尊は今年も暑さが厳しい中厳修され、参拝者は汗を流しながら一心に御題目をお唱えし、疫病退散をお祈りしました。

その後、恒例の襦袢において、参拝者皆様の暑氣払い・身体健全・無病息災をご祈念しました。又御宝前にお供えした五穀米を皆様に配りし、ご希望の方には御大事御本尊の御守札を授与致しました。

※尚、このいわれのある大切な『御大事御本尊』をお守りとして、檀信徒の方々に授与しております。

疫病退散  
御大事御本尊御守  
衆病悉除

御希望の方は  
当山までお問  
い合わせ下さい



## 屋根修繕工事着手

この度、遠忌事業の一環として、まず最初に本堂及び開山堂屋根修繕に着手させて頂きました。

修繕工事(七月二十二日～十月末の期間)は、神社屋根の銅板葺に信頼のける小野工業所様をお願いし作業を進めております。

既に本堂正面の屋根は写真の通り完了しており、現在本堂背面の屋根に取り掛かっております。

長年にわたり本堂及び開山堂の雨漏りに、酷く悩まされておりましたが、ご丹精頂きました方々の御力添えによつて、修繕出来る事に感謝を申し上げます。



## 遠忌事業丹精者の報告

令和十三年 高祖日蓮大聖人第七百五十遠忌 また翌十四年 御開山白蓮阿闍梨日興上人第七百遠忌を迎えるに際し、発願致しました「御報恩事業勸募」に際し、格別なる御懇志を賜り、心より御礼申し上げます。尚、十月一日以降に御志納された方々の御芳名は次号で報告掲載させて頂きます。

### 遠忌事業丹精者 御芳名

#### 末寺寺院・護持会

福泉寺様 四十口  
宗川寺様 三十口  
本源寺様 十口  
本禅寺護持会様 五口

#### 教師

青田 随鐘様 五百口

#### 檀信徒

木本 謙正様 百口  
植松 良太様 十口  
岩崎 幸久様 五口  
加藤 玉江様 二口  
霜田 康弘様 〃  
松尾 容子様 一・五口  
石川 實一様 一口  
石川 隆男様 〃  
石川 貴久様 〃  
井上 英之様 〃  
岩崎 功一様 〃  
植松 繁彦様 〃

植松 武之様 一口

遠藤 秀洋様 〃

遠藤 恵様 〃

小田 直純様 〃

加藤 年一様 〃

加藤 靖子様 〃

木野 司様 〃

久保田 広明様 〃

小林 キミエ様 〃

小宮 悦子様 〃

齊藤 律子様 〃

高崎 正人様 〃

津田 良子様 〃

陶山 正雄様 〃

内藤 多恵子様 〃

林 寿之様 〃

原田 洋様 〃

堀田 正弘様 〃

増田 政広様 〃

望月 政広様 〃

渡邊 豊彦様 〃

渡邊 義夫様 〃

九月三十日迄掲載



## 日蓮大聖人御会式法要

十一月十三日は本山での御会式法要がございます。御会式とは宗祖日蓮大聖人が池上本門寺にてご入滅なされた日に行う法要を指します。主に十月十三日を中心に法要を催し池上本門寺では数十本の万燈行列をなし読経をして盛大な祭事としても知られています。

日蓮大聖人は弘安五年（一二八二年）十月十三日辰の刻（午前八時）武蔵国池上郷の池上宗仲氏の館（東京都大田区）にてたぐさんの門下に囲まれ御経読誦のなか六十一歳をもってご入滅なされました。

本山では旧暦になぞらえ十一月十三日にご回向し前日の十二日には「御逮夜法要」を行います。

毎年全国各地で盛大に行う御会式ですが、私達の祖である大聖人がご入滅され

た日になぜこのような祭事として盛大に行うのでしょうか、大聖人の御命日忌悲しみ弔うべきではないかとい見真逆に思えるこの行いですが、この「御会式」の目的は日蓮大聖人のご入滅



出典：日蓮宗ポータルサイト、本山 池上 大坊 本行寺

を悲しみ弔う法要ではありません。もちろん弔いの心があつてはならないというわけではありません、ですが本来の目的は日蓮大聖人とその御生涯に対し「報恩

感謝」をするというのがこの御会式の趣旨であります。「報恩会式」とも呼ばれるほどです。

この報恩とは恩に報いる事を指し、大聖人もこの報恩をととても大切にしておられました。大聖人は生涯たくさんのお手紙や文章をしたためられておりますが、その中でもこの報恩という言葉はとて「報恩抄」という御遺文もあるほどです。これは大聖人の御師にあたる「道善御房」に送られたお手紙になります。この報恩は御会式だけでなく日々の生活の中でも欠かしてはなりません、皆様もまずは十一月十三日日本山で行われる「御会式法要」ひいては十二日に行われる「御逮夜法要」にご参列頂き日蓮大聖人とその生涯への報恩感謝をご一緒に致しましょう。

## 日蓮大聖人第七百四十四遠忌 御報恩会式

## 御逮夜法要

## 御正当法要

11月12日（水）18時30分より

11月13日（木）11時00分より

法要後 奉納太鼓・法話(川名義敬上人)

大聖人の御命日忌ですので、是非ご参拝ご焼香下さい

令和七年八月十六・十七日  
**おもしろ道場 開校**

本門寺に  
おいて第四  
回「おもしろ  
道場」が昨  
年に引き続  
き開催され  
ました。

本年は、  
山梨県・静  
岡県の日蓮  
宗・務所の  
ご協力を頂  
いての合同  
開催となり、三十六名の子供  
達の元気な声が境内に響く  
か開校式及び自己紹介が行  
われました。



**体験内容は：**

**『境内散策』**

本門寺の広い境内を時間を  
かけながら散策し諸堂の説明  
や、梨の木・本門寺堀のいわ  
れを聞き、また七本杉をまじ  
かに見てその凄さに驚きの表  
情を隠しきれませんでした。  
こうして、約七百三十年とい  
う長い歴史を肌で感じてまし  
た。

**『流しそうめん』**

境内で取れた竹  
を使用し本格的な  
流し台を作り、流  
したそうめん、舌  
鼓を打って楽しそ  
うにお腹一杯に食  
べました。

**『太鼓体験』**

重須孝行太鼓の  
方々に協力頂き、  
子供達は大小様々  
な和太鼓に触れ、  
演奏を聞いたり、  
自らバチを持って  
叩き方を教えても  
らい、演奏を体験しました。

**『竹灯籠作り体験』**

富士市のボランティア団体  
フィルネット様に、竹灯籠作  
成のお手伝いを頂きました。  
本山にある竹を使用し、子供  
達は初めて電動ドリルを手  
にして不安と好奇心の内、一  
点を見つめ集中し竹筒に穴を  
空けました。



怪我  
なく、無  
事にオリ  
ジナルの  
竹灯籠が  
完成する  
と、出来



栄えは大人顔負けの物があ  
り、その力作にほっとした表  
情を浮かべながら、笑みがこ  
ぼれておりました。

**『数珠作り体験』**

子供達がそれぞれ好きな玉  
を選び、針の穴を通すように  
四苦八苦しながら数珠作りを  
しておりました。苦戦してい  
る子を率先して手伝う姿も見  
られ、子供達の仲も益々深ま  
り、完成した数珠は子供達の  
個性溢れる色とりどりの数珠  
が出来上がりました。

**『食事』**

食の大切さの説明により、  
命を頂く事の有難さや、食事  
を作って頂いた人達・食材に  
携わる人達への感謝の気持ち  
を学び、【食法】をお唱えま  
した。

食法 天の三光に身を温め地  
の五穀に精神を養う 皆これ本  
仏の慈悲なり たとえ一滴の水  
一粒の米も功德と辛苦によら  
ざることなし・・・ (抜粋)

**『レクリエーション』**

孝行太鼓の父兄による趣向  
を凝らした縁日・スイカ割  
り・花火等でコロナ禍以降各  
地で見える機会も減った遊びに

子供達は、と  
ても楽しそう  
に一時を過ご  
しました。

また、昨年  
好評であった  
異色のお坊さ  
んマジシャン  
である五太子  
上人を招きマ  
ジックが披露  
されました。  
子供達は目を  
丸くしショー  
の最後には子  
供達もマジックに参加して、  
その世界に取り込まれていま  
した。

**『唱題行』**

堂内の明かりは昼間に作成  
した竹灯籠にロウソクを灯し  
ました。幻想的な空間を作り  
自分自身を見つめ直し高鳴つ  
た心を静め、御題目をお唱え  
し一日目の締めくくりとなり  
ました。





## 『朝のお勤め』

人々が朝、おはようと挨拶するのと同じようにお寺では、朝早く起きて御本尊様・日蓮大聖人に御給仕をし、併せて人々の安穏な一日を送れるようにお祈りする事がお勤めです。

子供達は普段よりも早くに起床し、眠たい目をこすりながら、お寺の修行で一番大切なお勤めに参加し、慣れないお経を一生懸命に声を出してお唱えし、今日一日が穏やかである事をお祈りしました。



## 『本堂掃除』

朝のお勤めの後、皆で広いお堂の中を隅から隅まで雑巾掛けをし、体と心の垢を取り除く作務行を体験しました。

## 『写経・手紙』

この時間では、現代に於いて技術の発展により、スマートフォンでのメール等が主流

の中、一泊二日のおもしろ道場での体験を通じ「五心」で習ったお経文を書写し、普段なかなか書き慣れない手紙に子供達は、一生懸命に家族や友人へ感謝の気持ちを込めていました。

## 『日尊上人と梨の木の子』

本門寺のお坊さんによる、劇が披露され子供達もお坊さん達の初めての演技に釘付けになり、盛り上がり楽しみながらも本門寺の歴史をまた一つ学ぶ事が出来ました。

## 『閉校式』

子供達が苦戦しながらも一生懸命に作った数珠を手に持ち、家を離れての二日間のお寺で体験した事の締めくくりとして、御題目に感謝の気持ちを込め日蓮大聖人に感謝しました。

最後に道場長（鈴木春雄執事長）より子供達に修了証が手渡され、

「この二日間、五心を通じて学んだこと、あ

るいは体験したことは



皆さんの心の財産です。家に帰ったら家族の人にお寺での生活をお話し下さい。これからの日常に於いて感謝・反省・奉仕・謙虚・素直の気持ちを忘れないで一生懸命勉強して下さい。また、保護者の皆さんにはこの道場の趣旨をご理解頂き参加をして頂いた事に感謝し、来年もおもしろ道場に来て頂くことを願います。」と御挨拶されました。

参加した子供達は、出迎えるの家族に少し遅くなった表情を見せつつ、短い時間ではありましたが一緒に過ごした友達と名残惜しそうに、解散していきました。

## 生活の中で大切な五心

「はい」という素直な心

「おかげさま」という謙虚な心

「すみません」という反省の心

「私がいいます」という奉仕の心

「ありがとう」という感謝の心

購読者の皆様も日常の五心を心掛け、穏やかな日々をお過ごしください。

## 御協力頂いた皆様へ

おもしろ道場に多くの皆様のご支援ご協力頂き、無事円成出来ましたことを御報告し、本誌を以て御礼申し上げます。

## 協賛

日蓮宗 山静教区様

## 御供養

山梨（一）・（二）宗務所様  
了仙寺 松井大英様  
養仙坊様・東陽坊様  
西之坊様・養運坊様  
蓮行坊様・本妙寺様  
福泉寺様・小林歌子様

## 御協力

おもしろ孝行太鼓保存会様  
フィルネット様  
ポスター掲示・チラシ設置  
に御賛同いただいた皆様

8月16日（土）		8月17日（日）	
9:15	集合・受付・班分け等	4:45	起床・寝具片付・洗面等
9:30	開校式・写真撮影	5:30	朝勤 本堂
10:00	境内案内	6:10	五心④
11:30	昼食	6:30	ラジオ体操
12:30	五心①	7:00	掃除
13:30	太鼓体験・竹灯籠作り・五心②	8:00	朝食
	（班ごと交代）	9:00	五心⑤
16:00	数珠作り	9:45	写経・手紙・芝居
17:00	夕食	11:30	閉校式
	レクリエーション		修了証、集合写真配布
20:00	五心③	12:00	解散
20:30	入浴・就寝		

法華經に学ぶ 第三十三回

布教伝道部 浦野 弘正

他土六瑞

さて、前回は仏さまの三十二相の一つ、眉間白毫相から光が放たれる、放光瑞のお話までしました。お釈迦様の眉間から放たれた光によって照らし出された、東方一万八千という数多くの世界でどのような奇瑞が見られたのでしょうか。その照らし出された世界でも、「此土六瑞」と同じように六種の奇瑞があつたことが語り始められます。これがこれからお話しする「他土六瑞」です。

順番に挙げますと、①見六趣瑞②見諸仏瑞③聞諸仏說法瑞④見四衆得道瑞⑤見行瑞⑥見歸涅槃瑞の六つで、『開結』では六十一頁冒頭から半ばまで、『岩波(上)』では二十頁冒頭から半ばまでです。

他土六瑞①見六趣瑞

まず、お釈迦様の眉間から放たれた光によつて、東の方角の一万八千の世界が照らし出されると、下は「阿鼻地獄」という「地獄」の中でも一番下の世界から、上は「阿迦尼咤天」という世界までをも照らし出しました。つまり、十界の内六道である、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の世界が照らし出されたのです。阿迦尼咤天は「有頂天」ともいい、色界の中でも一番上の世界をいいます。つまり形ある世界の一番下から一番上までの全ての世界が照らし出されたのです。

十界と六道

仏教では迷いの世界と覚りの世界を、下から順に「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人」「天」「声聞」「縁覚」「菩薩」「仏」の「十」の世「界」に分けていますので、これを「十界」と呼びます。そのうち地獄界から天界までを「六道」あるいは「六趣」と呼びます。蛇足になりますが、地獄界・餓鬼界・畜生界を合わせて「三惡道」、これに修羅界を加えて「四惡趣」と呼びます。いずれも人界より下の良くない世界をいいますので「惡」の字が入っています。

私たちが生まれ変わり死に変わりすること「輪廻転生(りんねてんせい・りんねてんしよう)」といいますが、六つの世界をめぐるので、「六道輪廻」ともいいます。この輪廻から抜け出すことを「解脱」といいます。それに対して「声聞界」から「仏界」までの世界を「四聖」と呼びます。六道輪廻から解脱すると、この四聖の世界に生まれ変わります。六道には生まれなくなります。「四つ」の「聖」なる世界で「四聖」です。十界を二つに分けて、「四聖六道」もしくは「六道四聖」と呼び習わしています。十界と三界、四聖六道の関係は表のようになります。

他土六瑞①見六趣瑞の続き

本文に戻ります。「於此世界 尽見彼土六趣衆生」「この世界において、尽く彼の

土の六趣の衆生を見る」の部分です。生きとし生けるものを仏教では「衆生」と呼びます。東方一万八千という膨大な世界中の、このまだ迷っている衆生が六道輪廻する様子が、その光によつて明らかにされたことを最初の奇瑞として「見六道瑞」といいます。

他土六瑞②見諸仏瑞

同時に、その数多の衆生にお説法をされていく様々な仏さま方がいることも、その光によつて見えたといえます。これが二番めの「見諸仏瑞」「多くの仏さまが見えた」という奇瑞です。

他土六瑞③聞諸仏說法瑞

さて、迷える衆生が照らし出され、その衆生と共にある仏さま方も照らし出されました。仏さま方は、ただそこにいらつしやるわけではありません。その衆生に対して、救済するべくお説法をなさっている声までも聞こえてきました。これが三つめの「聞諸仏說法瑞」「諸の仏さまの説法が聞こえた」という瑞相です。(続く)

十界と四聖六道、三界の関係		
十界	四聖六道	三界
地獄	六道	欲界
餓鬼		
畜生		
修羅		
人	四聖	色界
天		
声聞		
縁覚		
菩薩	無色界	無色界
仏		



## 第十一回 合同清掃奉仕

七月十八日午前九時より、お盆前の清掃作業を塔中・檀信徒の奉仕により行いました。たくさんの方の皆様のご奉仕に感謝を申し上げます。

### 奉仕者御芳名

順不同・敬称略

養仙坊	太田川 一郎	養仙坊	石川 茂樹	養仙坊	渡邊 一雄	養仙坊	宮島 三男	養仙坊	太田川 久	養仙坊	石川 宗男	養仙坊	諸星 亜希子	東陽坊	石川 昌之	東陽坊	加藤 貴之	東陽坊	富永 政則	東陽坊	望月 正見	西之坊	鈴木 崇明	西之坊	石川 剛浩	西之坊	後藤 幸夫	西之坊	藤田 欣大	西之坊	藤田 文代	養運坊	渡邊 和正	養運坊	藤田 淳	養運坊	野村 純正	養運坊	萩 貴世孝	養運坊	松原 和代	養運坊	井出 和子	蓮行坊	齊藤 美英	蓮行坊	遠藤 英彦	本山	渡井 将文	本山	松永 省吾
-----	--------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------



## 環境整備ご報告

六月・七月炎天下の中、鈴木執事長と雄大上人・阿部師の三人でお盆をお迎えする前に、本堂回廊及び戸板の高圧洗浄を行い、仁王門・客殿・駐車場等、周辺各所の植木剪定や整備を行いました。



### 御塔林（五十塔跡地）草刈り

六月二十九日、本門寺司判・大世話人の皆様のお力をお借りして、鬱蒼とした御塔林の草刈をして頂きました。

急な斜面の為、足場の悪い中の作業ではありましたが綺麗にして頂き、五重塔があった当時を偲ぶ事が出来ました。蒸し暑い中の作業、誠にありがとうございました。

## 三光池周辺整備完成



時間を要しましたが、旧三光池中央にありました題目碑を東側にお祀りし、防火水槽を兼ねた新たな池に造り替えました。併せて鐘樓堂周辺に庭石を据え、危険であった御廟所へ向かう急階段を使用しないよう、池と鐘樓堂の間に緩やかなスロープ通路を設置し安全を確保しました。

今回の改修工事に当たり、石川眞様（富士市）・（有）トガミ石材様（外神）・西之坊・養運坊・蓮行坊・養仙坊・東陽坊様の御丹精を頂き感謝申し上げます。



また、新三光池には養仙坊様の奉納によって数多くの錦鯉が放流され、彩りを添えて下さいました。



### 本堂シャッターの切断

五月末に本堂の内陣シャッターが経年劣化の為、突然落下し使用不可能となりました。

修理或いは撤去等の判断と業者選定に約二カ月の時間を要しましたが、最終的にシャッターを切断し撤去する事となりました。八月のお盆前に作業が完了し、通常通りお参り頂けます。

ご参拝の皆様には、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。



教学研修会開催

六月二十六日 第十講 本間俊文先生(立正大学)「日興上人の曼荼羅本尊書写(一)」をご講義を頂きました。

七月二十五日 第九講 三輪是法先生(立正大学)第四回「近代における日蓮研究」並びに、十月三日 第十講 第五回「近代における日蓮研究」を主題としてこの度も貴重なご講義を頂きました。  
次回は十二月十一日本間俊文先生、第十一講を予定しております。

布教研修所 来山

九月四日、布教研修所より、八名の皆様が本門寺へと研修参拝の為、来寺されました。

秋季彼岸会法要

九月二十三日、御彼岸中日に客殿において法要が営まれました。



エアコン設置

旭日重貫首貌下より、方丈にエアコンを設置して頂きました。

龍神図展開催

九月十三日から十五日までの三日間、本門寺本堂内において、長谷川真弘師による龍神図展が開催されました。また来場された方に対して、ご希望があれば御開帳も行われました。全国各地より約三百名程の拝観者が訪れました。



※本門寺施設一部を開放しておりますのでご利用希望の方は、寺務所までお気軽にお問合せ下さい。

電話番号

〇五四・五八一・〇〇四

新寂回向の御報告

六月

東陽坊 故 内藤 六男 様  
久成寺 故 福島 けい子 様  
久成寺 故 小松 勉 様

七月

久成寺 故 湯山 政彦 様  
西之坊 故 佐野 洋光 様  
蓮妙寺 故 西ヶ谷 久夫 様  
養運坊 故 定塚 安弘 様

八月

西之坊 故 大石 建江 様  
養仙坊 故 笠井 賢一 様  
久成寺 故 金子 美子 様  
久成寺 故 滝口 道春 様  
久成寺 故 松元 厚志 様  
蓮華寺 故 木口 雅章 様  
蓮華寺 故 當間 慶子 様  
蓮華寺 故 安田 松慶 様  
蓮華寺 故 神田 暢夫 様  
蓮華寺 故 水谷 照之 様  
蓮華寺 故 井上 浩一 様  
蓮華寺 故 坂内 ツメ子 様  
蓮華寺 故 新倉 フサ 様  
蓮華寺 故 山本 郁夫 様  
蓮華寺 故 杉本 正暉 様  
蓮華寺 故 加藤 春 様  
蓮華寺 故 中村 隆一 様  
蓮華寺 故 小野 打 佳弘 様  
蓮華寺 故 宮下 こう 様

九月

養運坊 故 佐野 暁男 様  
養仙坊 故 朝日 きみ子 様  
養仙坊 故 諸星 利 様

九月三十日迄申込み・申請順

菩提寺様よりお申し込みをいただきました新寂霊位は日々の晨朝勤行にて御回向させていただいております

護山志納金の報告

令和七年度分

塔中 西之坊 様  
市内 本源 寺 様  
市 正林 寺 様  
市 本光 寺 様  
市 法華 寺 様  
市 妙典 寺 様  
市 蓮正 寺 様  
市 本源 寺 様  
市 正法 寺 様  
市 妙妙 寺 様  
市 本禅 寺 様  
市 宗川 寺 様  
市 法輪 寺 様  
市 本光 寺 様  
市 佐渡 寺 様

九月三十日迄申込み

護山志納金をお納め頂き  
厚く御礼申し上げます

塔中特別志納報告

令和七年度分

塔中 西之坊 様  
厚く御礼申し上げます

本門寺の主な予定

十月  
九日 千葉県蓮成寺団参  
二十四日 境内清掃奉仕  
二十八日 茨城県大谷寺団参  
十一月  
十二日 御逮夜法要  
十三日 宗祖御会式  
十八日 長野県深妙寺団参  
十二月  
三十一日 大晦日・新年祝禱会

丹精者御芳名

錦鯉奉納  
塔頭 養仙坊 様  
供米奉納  
養仙坊 様 東陽坊 様  
西之坊 様 養運坊 様  
山梨県 清水 治 様  
山梨県 阿部 央 様  
山梨県 久保田 審 様  
海産物・供物奉納  
千葉県 中谷 雄一郎 様  
市内 朝日 己恵 様  
献花  
北山 星谷 とみ子 様  
境内清掃奉仕  
重須 婦人会 様  
塔中 寺庭 婦人 様  
石川 由緒 家 様  
静岡市 紺文シルク 様  
篤志に御礼申し上げます